**第２回　大刀洗町総合計画策定審議会　議事録**

【日　時】

平成30年5月28日（月）　9：30～11：30

【場　所】

　　　　　大刀洗町役場　3階　大会議室

【議　事】

　　　　　（１）将来像（案）について

　　　　　（２）体系図（案）について

　　　　　（３）今後の進め方について

【主な意見】

●委員

近年の大刀洗の人口は増えているのか。転入転出者数が知りたい。

◎事務局

H27年は転入677人、転出697人で　マイナス20人

H28年は地方創生の取組みが進んだこともあり

転入824人、転出719人のプラス105人

H29年も転入739人、転出717人のプラス22人です。

近年、人口としては微増傾向にあります。

●委員

国際交流に関して、近年、大刀洗町に居住される外国の方も増えてきたと思うが、ゴミ出しのルール等が浸透していないように感じる。ゴミ出しに限らず、地域のことに関して、向こうから積極的に地域の輪に入っていくのは大変だろうから、こちらから輪に誘い、打ち解けていく必要があると思う。

●委員

外国の方が増えているのだから、小・中学生と繋がる機会をもっと増やせると良いと思う。繋がる機会が増えれば生活の中で自然と国際交流ができ、子どもたちにも広がりができて良いと思う。

●委員

防犯灯が欲しいところにない。住民が1番必要な場所を把握しているのだから、もっと意見を言いたいが、どこに意見を言えばよいのかよくわからない。

●委員

町に防犯灯をつけてもらっても、維持費は区が持つ。安心と費用のバランスが難しいところだ。

◎事務局

今後は、行政に対して、意見（声）をあげる方法やそのタイミングの周知、町民が意見を言い易いような機会をもっと増やしていけるように意識していきたいと考えています。

●委員

全体的に行政のやっている取組みが伝わっていない。

広報にもっと力を入れたほうが良い。回覧に限らずFacebook等でも周知した方が良い。

●委員

小・中学校の保護者については学校で開かれる地域懇談会が意見を言う場として機能していると思う。

●委員

地域懇談会の欠席者が多いことが課題となっている。

●委員

将来像を実現するために、各施策があると思うのだが、体系図では関連が薄いように見える。将来像があって、基本目標があり、それが各施策に繋がっていくのだろうが、現時点では施策をグルーピングしただけの状態となっている。

今後は、将来像をどのように体系図に繋げていけるかを話し合うべきだと思う。施策の内容は決定なのか。

◎事務局

将来像と基本目標、施策への繋がりは、もっと分かりやすいように工夫していきます。

施策の内容は決定ではありません。追加や削除についても、皆さんからご意見をいただきたいです。現在は、各施策を並列で並べている状態ですが、重要だと思う事項についても皆さんからご意見をいただきたいです。

●委員

公共交通機関についてだが、小郡市が行っているような、循環バスの運行は、大刀洗町は行わないのか。

◎事務局

現時点では町はバスの運行は行っていません。そしていつからやるという明確な計画はありません。町の直営ではありませんが、昨年度から大刀洗校区で地域づくりの取り組みの一つとして、曜日を限定した校区巡回バスが運行されています。

●委員

役場に行くバスがないので困っている人もいる。公共交通で役場に行こうと思うと、宮の陣まで回らないといけない。とても不便だ。

◎事務局

ご意見のとおり、大刀洗町は公共交通の空白地帯が多い状態です。

昨年度実施した、住民アンケートでも公共交通を重要視する結果が出ており、事務局としても大きな課題として捉えています。現在65歳以上の割合が26％であるため、単純に計算しても、10年後には4人に1人が75歳以上となる見込みです。今回の総合計画において、公共交通は重点事項として協議していきたいです。

●委員

望ましい10年後の状態と予想される10年後の状態、そこから出てくる現状と課題が審議会においての中心的な議題になると思う。具体的な取組みはそこから必然的に導かれることになるはず。

その際に、将来像（案）の資料で説明されている下段に記載された「関心」⇒「行動」⇒「愛着」のサイクル図と上手く絡ませることができたらストーリーができて分かりやすいものになると思われる。

●委員

施策の進め方についても、町で生活している方が、関心を持てるようなやり方をしていかないといけないと思う。

●委員

町民が主体となって関わっていける施策を重点的に話し合うべきだ。

行政主体で行うしかないものもある。そういうものは審議会の議論では優先順位を落としても良いはず。

例えば、河川などは国や県などの行政機関とやり取りしないと実現は難しいと思う。

◎事務局

　町民の方が出来ることが限られているという部分ももちろんありますが、将来像で「わたしたちが創る」とワードとして掲げていることから、各施策について、町民の方や地域に関わっていただきたい部分を明確にしていきたいと考えています。

●委員

予想される10年後の状態については、具体的な数値を出した方が議論しやすい。

例えば、空き家対策でいうと10年後は空き家が何戸になっているなどを予想して欲しい。

◎事務局

　将来をよりイメージしやすいように、数値で出せる部分は可能な限り、数値でお示しできるようにしたいと思います。

●委員

校区別の計画との町全体の総合計画の整合性は考える必要があるのか。総合計画が定まってからその内容を校区におろすことになるのか。

◎事務局

校区別の計画は校区ごとの将来像を描くものなので、具体的な細かい施策までは盛り込まない方向で考えています。

また、各校区の特色を出していただきたいので、総合計画本体の内容を校区別の計画に落とし込むことは考えていません。

●委員

　昨年度から、ワークショップに参加しているが、参加者が少ない。もっとたくさんの方の意見をもらえるように工夫をした方がよい。

◎事務局

　今回の校区別の計画については、各校区で地域づくりを主体となって進めている運営委員会を基本としていますが、若い世代の意見や視点を取り入れるために、ワークショップには高校や中学校に協力いただいて学生にたくさん来ていただけるように働きかけていきます。